

JForest 栗駒高原森林組合だより



やまびこ

第 28 号

平成 27 年 12 月 1 日

発行・編集

栗駒高原森林組合

栗駒桜田街道西11の96

TEL (0228) 45-3311

FAX (0228) 45-3312

<http://kurishin.ec-net.jp>



宮城県林業人材育成ステップアップ研修

目	次
◇ T P P と 林 業 2	◇ 樹木の豆知識シリーズ② 5
◇ 古ノ森「千年クロベ」 2	◇ 木材市況〔10月〕 5
◇ 産業功労賞受賞 3	◇ 栗駒高原森林組合運営機構図 6
◇ 構造用木材の強度実証試験 3	(株)栗駒高原開発センター運営機構図 6
◇ 宮城県林業人材育成ステップアップ研修 4	◇ 係より 6
◇ 第28回優良みやぎ材展示即売会 4	

TPPと林業



代表理事組合長
佐藤 則明

今、日本ではTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)の議論が盛んに行われています。アジア・太平洋地域経済の自由化を進めるためのルールを構築する経済連携協定であり、TPPは、物だけでなくサービスや投資も含まれています。更に知的財産や金融関係、電子取引など国境を越えて様々な経済活動について共通のルールを設定することまで意図している点が特徴と言えます。

我々の身近で一番影響を受けるのが農業です。多くの農産品や畜産品をアメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド等のTPP参加国から輸入しています。国内関税の撤廃によって、日本国内の農業者は激しい競争にさらされます。関税が緩和されれば、今すでに40%しかない食料自給率がさらに低下し、農

業が衰退することは明らかです。それは我々林業が歩んできた50年を見れば解ります。

TPP議論が起きた時から、林業に対しての影響は語られませんでした。林業を無視していた訳ではありません。昭和26年には丸太関税撤廃、昭和39年には木材貿易完全自由化になっていました。今や合板の関税が5%残るだけとなっています。自由化に至る時代背景はあつたにせよこの政策によって我々林業は重大な事態に陥りました。中山間地の崩壊を招いたのはこの自由化による処と思つていきます。木材の価格は昭和50年頃をピークとして現在はその四分の一に下がっています。米価は二分の一の下落ですからその倍の下落なのです。

米の関税を撤廃し、農業までもが我々林業の二の舞にならないような政策をお願いしたいものです。

その中で戦後拡大造林した山は収穫期に入っています。夢を追った植林地を最大限生かし林業の立て直しを図っていかねばなりません。「宝の山を生かす時が来た」と気を引き締めて組合経営に取組んでまいりますので、組合員皆様のご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

古ノ森「千年クロベ」

栗駒山麓の中腹、標高850m地点に樹齢千年以上のクロベ(ヒノキ科クロベ属・別名ネズコ)が自生しています。この千年クロベは樹齢では日本一、いや世界一とまで称されています。樹高は29m、幹周囲は10mもあります。一度見たかった、千年クロベに出会えました。



世界谷地駐車場から湯浜に向かう古道を進み、世界谷地第1湿原入口、第2湿原入口を通過すると広大なブナ林が続きます。このブナ林には心が癒されます。そうすると変則十字路があり、休憩の場としてベンチがあります。ここまで約1時間かかり、左に進み、ブナ林を歩くこと50分、大地沢に着きます。流れる清水を見ると古ノ森に感謝感激です。大地沢を渡り約20分すると小松沢です。左へ進むと旧林道が現れ、なぜか白い軽トラが止まっており不思議な気持ちになります。更に約20分進み、旧林道から左へ約100m入ったところに巨大千年クロベが自生していました。ここにはクロベが数多く点在しており、どの木が日本一の千年クロベか迷います。気が付いて見ると30cm位の小さな木杭に表示があり、そこが千年クロベの入口でした。さっそく測樹し何度も何度も周囲をみたり、離れて見上げたり。太い枝の上には別

には驚嘆するばかりでした。初めて出会った千年クロベ、これからも自然気象に耐え、長く古ノ森で生き続けてほしいものです。

「産業功労賞」受賞おめでとうございます

平成27年文化の日を記念して去る11月6日(金)仙台国際センターに於いて表彰式が行われ、当組合 菅原清喜氏(栗駒・松倉)が、多年にわたり県勢の発展、林業振興に寄与された功績を認められ、宮城県知事より産業功労賞を受賞されました。

誠におめでとうございます。



構造用木材の強度実証試験が開催された

去る11月2日、宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所と宮城北部森林・林業活性化センター栗原支部主催による「構造用木材の強度試験」が東北職業能力開発大学の協力により実施された。県栗原事務所林業振興部、東北職業能力開発大学校、株式会社蘇木工務店、株式会社くりこまくんえん、栗駒高原森林組合、活性化センター会員の総勢17名の参加により開催された。

試験は栗原産材のスギ天然乾燥材4本、スギ低温乾燥材3本、スギ高温乾燥材1本、スギ集成材1本を使用し曲げ強度の短期強度試験によるヤング係数の測定を行った。スギ構造材の柱の設計強度は曲げ強度で21.6KNで今回の試験では30KN前後で破壊、含水率が低いほど強度が高くなるだろうとの予想のもとで行った。

はじめに木材の含水率調査を簡易測定器による4点測定を行い、結果天然乾燥材、低温乾燥材については約30%の含水率で、高温乾燥・集成材については約12%の含水率での試験となった。強度試験は上部2点の集中加重で曲げモーメントが2点の形状になるようにし、1本当たり10分程度の試験時間となった。

試験の結果、含水率調査においては全乾測定を行い簡易測定器との差は7本が5~13%低い数値となったが、高温乾燥材と天然乾燥材1本で38~51%高い数値となった。含水率をより正確に測定するには透過型のマイクロ波を使用することによる品質のよい製品が生産可能と思われる。

強度試験では低温乾燥材で約30KN、天然乾燥材で約25KN、高温乾燥材で19KN、集成材で16KNとなった。今回高温乾燥材や集成材は含水率が少なく木材細胞内の自由水や結合水が少なくなり、材内の繊維が乾燥したためやラミナ材の接着不足や低質のラミナ材を使用したため一気に破裂したと思われる。天然乾燥材や低温乾燥材は設計強度を満たしており使用に関しては問題ないと思われる。

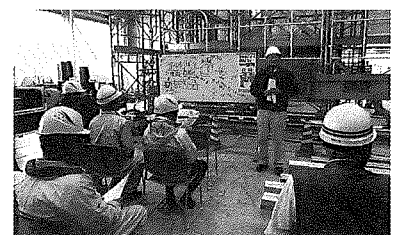
大学校の試験機器はあくまでも認定機関の試験ではないため簡易試験の参考値となるが、今回の強度試験で天然乾燥材でも強度があることを使用する方々にも理解して頂き、価格の安い天然乾燥材の利用を働きかけたい。

今後の課題として、今回高温乾燥材と集成材の試験本数が少なかったので本数を増やしての試験が必要と思われる。また天然乾燥材と人工乾燥材の製材の曲がり、収縮がどの程度発生するかの試験をしてみる必要がある。

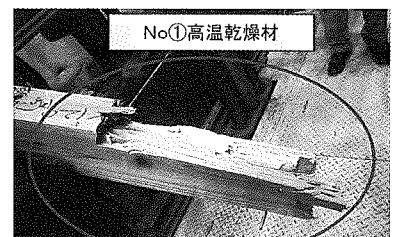
産官学が協力のもと今回の試験を行うことができた。英知を集結することが将来の栗原の木材産業に必要不可欠であると思われる。

なお、試験の結果についての詳細は組合ホームページをご覧ください。

<http://kurishin.ec-net.jp>

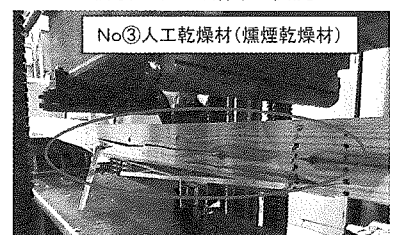


青柳先生の講習状況



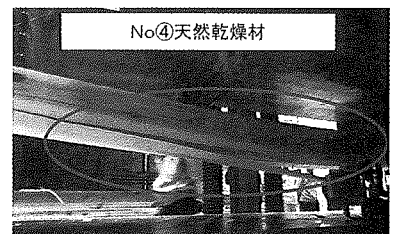
No①高温乾燥材

破壊された断面の状況



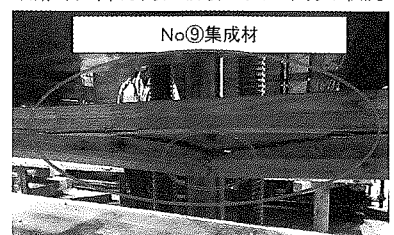
No③人工乾燥材(燻煙乾燥材)

繊維(水平)方向に破壊された木材の状況



No④天然乾燥材

繊維(水平)方向に破壊された木材の状況



No⑨集成材

ラミナ材のジョイントから繊維(水平)方向に破壊された木材の状況

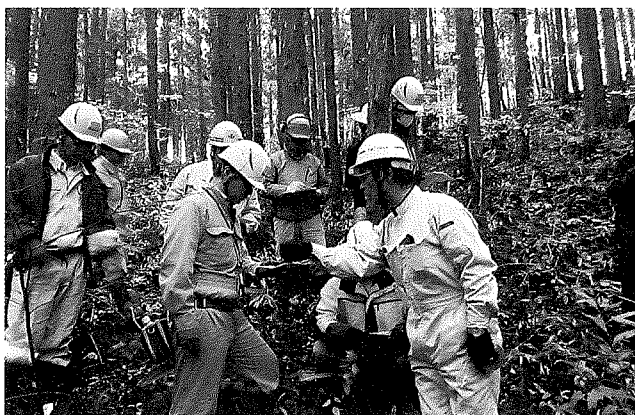
宮城県林業人材育成ステップアップ研修

11月5日、栗駒沼倉似坂地内で宮城県主催による宮城県林業人材育成ステップアップ研修会が開催され、宮城中央森林組合 中鉢氏を講師に招き、宮城県職員をはじめ栗駒高原森林組合職員・作業班員の14名が参加しました。

この育成研修の目的は、持続的な森林経営の推進に向け森林所有者に対して、森林経営計画の作成を通じて低コストで収益性の高い施業提案やその実行を確保するための中核となる人材を育成するものです。

実践研修では、森林作業道の路線、選定の方法、計画線形の適否、留意すべき地形、工作物等について説明がありました。地形や植生の状況から湧水が出やすい所や立木が曲がっている場合は、土が動いているので崩れやすい等の現場の知識を教えて頂きました。

路線選定にあたっては、現場作業員と職員が共通の認識をもち、山を理解し安全で効率的な森林作業道を作る知識と技術が必要であると感じた研修でした。



◆ 第28回優良みやぎ材展示即売会 ◆

平成27年11月12日(木)／宮城県森林組合連合会 大衡総合センター

記念市の入札に先立ち記念式典がおこなわれ、来賓の宮城県農林水産部長・東北管理局長の祝辞の後、出品材の入賞者の表彰がありました。出品点数は「単木の部」17点、「樅積の部」15点の計32点、樹種はスギでした。

審査は節や割れ、完満度等の材質や切り口面等の造材技術、キズ、汚れ等の生産技術について実施され、当組合では出品材はありませんでしたが「単木の部」では材の品質が優れ、造材、生産技術が高く評価され、「樅積の部」ではそれに加えて品質等のまとまりが評価され、宮城県知事賞はそれぞれ石巻地区と大崎市の森林所有者の方が受賞されました。

尚、当日の出品量は2,233m³、販売量1,355m³、販売率60%、平均価格15,600円(石当り4,333円)でした。



樹木の豆知識シリーズ②①

「シラカバ」ってなあに？

◎「シラカバ」ってどんな木？

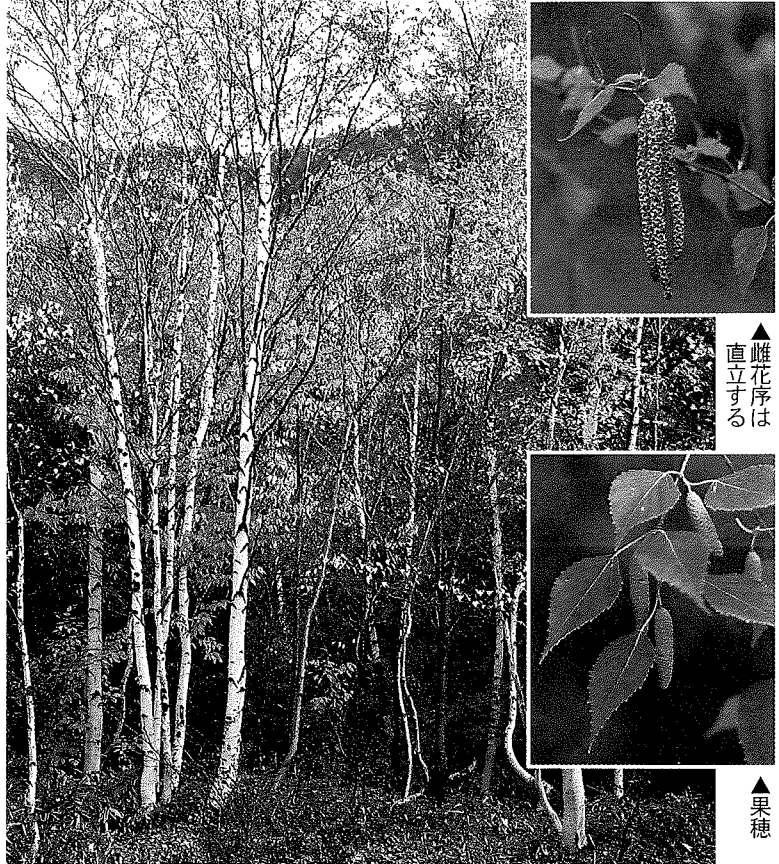
「シラカバ」はカバノキ科の落葉高木。深山の日当たりのよいところに群生し、日本の高原を代表する木の一つである。高さは20～30mになる。主に長野県や北海道に多い。都道府県、市町村の木に指定する自治体も多く見られる。

◎名前の由来

樹皮が白いことからこの名がある。別名「シラカンバ」とも呼ばれる。

花粉が風によって運ばれる「風媒花」で花は地味で目立たないが、一部地域では花粉症の原因ともなっている。

シラカバは材質が柔軟であるため民芸品や割り箸等に利用され、同じカバノキ科のウダイカンバは、家具や建築の内装用としては高級材である。



▲雌花序は直立する

▲果穂

▲秋になると葉が黄色く色づいて、白い樹皮と美しいコントラストを見せる

= 木材市況 [10月] =

価格：1m³当たりの単価

	樹種	材長	径級	高値	中値	安値	比	備考	
仙北	スギ	3.00	14～16	—	—	—	—	市日	21日
			10～13直曲	10,000	9,500	2,880	—	出品量	263m ³
		4.00	14～18	10,080	9,500	7,200	—	販売量	263m ³
			20～28	10,080	9,500	8,500	—	販売率	100%
			30上	10,080	9,500	8,500	—	販売額	2,135千円
2.00	14上	7,200	6,120	2,880	—	平均額	8,118円		
大衡	スギ	3.00	14～16	9,720	9,000	2,880	—	市日	14日
			10～13直曲	10,000	9,500	2,880	—	出品量	1,333m ³
		4.00	14～18	10,000	9,500	7,200	—	販売量	827m ³
			20～28	10,080	9,500	8,500	—	販売率	62%
			30上	10,080	9,500	8,500	—	販売額	7,360千円
2.00	14上	7,200	6,120	2,880	—	平均額	8,900円		

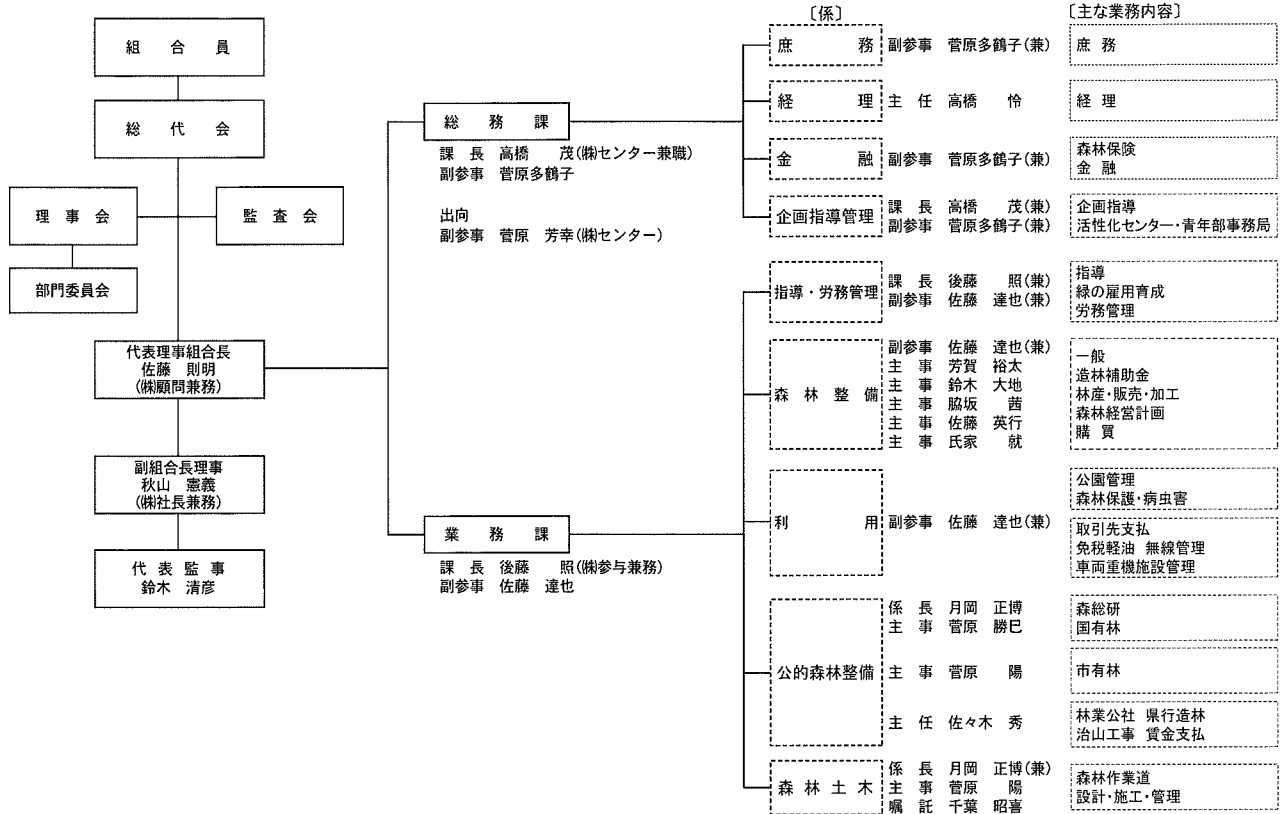
《△：上げ —：保合 ▽：下げ》※安値は曲材の価格です。

概況：各センターへの入荷は少なかった。原木の動きは材不足なこともあり良好だったが、価格は製品市況の回復がなく低迷が続いていることから大きな動きはなく横這いでの取引となった。

今後は秋需要での価格上昇を期待したいが、もう暫くは現状での動きが続くと思われる。

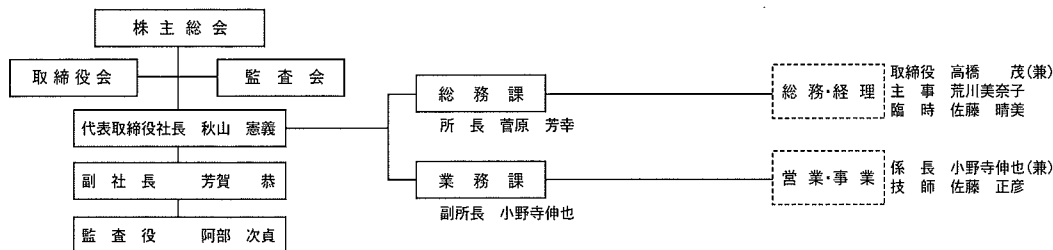
栗駒高原森林組合運営機構図

《平成27年11年1日》



(株)栗駒高原開発センター運営機構図

《平成27年11年1日》



《退職》

平成27年10月31日付

兵藤 知 則 (職員)

出身地/栗原市花山

長い間大変お疲れ様でした。有難うございました。



係より

組合員のみなさんへ



相続加入手続きについて

組合員が死亡した場合、届出が必要になります。相続加入手続きをお願いいたします。

承継加入手続きについて

組合員が後継者に山林を贈与した場合、届出が必要になります。

住所変更について

組合員が住所を変更した場合、届出が必要になります。

◎詳細については、総務課にお問い合せ下さい ☎四五一三三一